

市内遺跡

詳細分布調査報告書

平成10年度

青森市教育委員会

序

近年は、東北新幹線八戸 青森間フル規格化、新総合運動公園建設事業など県都としての発展に向かう大規模な開発計画への着手が進んでおり、青森市をとりまく状況は刻々と変化しております。

種々の開発計画と埋蔵文化財の保護との調整を図っていくうえで、遺跡の範囲や性格等を把握し、市内に所在する遺跡に関する基礎資料を整備していくことは重要なことであり、より正確なものとして充実させるために、調査を継続していくことが私たちの責務であると認識しております。

当委員会では、国と県の補助金を受け、平成4年度から、市内遺跡詳細分布調査を実施してきております。

本書は、平成10年度に実施した調査成果をまとめたものであり、埋蔵文化財の保護の一助となれば幸いと存じます。

最後となりましたが、本書を刊行するにあたり文化庁・青森県教育庁文化課をはじめとした関係各機関、関係各位に対しまして、深く感謝の意を表する次第であります。

平成11年3月

青森市教育委員会

教育長 池 田 敬

例 言

1. 本書は、国と県の補助金の交付を受けて、平成10年度に実施した青森市内遺跡詳細分布調査事業の報告書である。
2. 本文中の遺跡の位置図には、国土地理院発行の2万5千分の1の地図を利用し、上辺を北に統一して掲載した。なお、埋蔵文化財は地中に埋もれているという性格により、範囲に関しては、あくまで目安であり、確定的なものではない。
3. 分布調査において、表面採集した遺物は、現在、青森市教育委員会が保管している。
4. 本書の作成にあたり、次の方々にご協力を賜った。ここに深く感謝の意を表する次第である。
工藤 一彌 成田 滋彦 水田 政雄 金山 晃道 長崎 勝巳

目 次

序	
例言	
目次	
第 章 事業実施の概要	
第1節 調査目的.....	1
第2節 調査要項.....	1
第 章 調査成果	
第1節 調査概要.....	3
第2節 新規登録遺跡.....	4
第3節 遺跡範囲を変更した遺跡.....	9
第 章 青森市内の遺跡の分布と地質の関係について.....	10
まとめ.....	23
報告書抄録	

第 章 事業実施の概要

第1節 調査目的

本市においては、近年、多種多様な大規模開発をはじめとした各種開発事業が増加しており、それに伴い、破壊・消滅の危機に瀕している埋蔵文化財包蔵地も数多く認められる。

埋蔵文化財を保護し、開発事業との円滑な調整を図るためには、管内に所在する埋蔵文化財包蔵地に関する資料の充実に努めることが重要である。

以上の点を踏まえ、埋蔵文化財保護行政を推進していく上で、最も基本的なことは、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地の現況・範囲・数の把握、新規遺跡の発見等を行うことによって、詳細な資料を整備しておくことである。よって、この事業を標記の事業名で国と県の補助金を受け実施したものである。

第2節 調査要項

1. 対象地区

市内全域

2. 事業期間

平成10年4月1日～平成11年3月31日

3. 調査担当機関

青森市教育委員会生涯学習部社会教育課埋蔵文化財対策室

4. 調査体制

調査事務局

青森市教育委員会

教 育 長	池 田 敬
生涯学習部長	齋 藤 勝
社会教育課長	間 山 義 弘
埋蔵文化財対策室長	遠 藤 正 夫
室 長 補 佐	福 士 敦
埋蔵文化財係長	石 岡 義 文
主 事	田 澤 淳 逸 (調査担当)
”	小 野 貴 之 (”)
”	木 村 淳 一 (”)
”	児 玉 大 成 (”)
”	沼 宮 内 陽 一 郎 (”)
”	設 楽 政 健 (”)

5. 調査指導機関

文化庁

青森県教育庁文化課

6. 調査方法

市内全域を対象とし、特に開発が予想される地域を重点的に、埋蔵文化財包蔵地の現地踏査によって、周知の遺跡の現状確認、新たな遺跡の発見等を行う。併せて、遺跡台帳整備のための周知の遺跡の範囲を確認する。新たに発見された遺跡は、青森市遺跡台帳に記載し、青森県遺跡台帳に新規登録される。

また、開発申請のあった地区の現地立ち会いや周辺の踏査、一般市民からの情報提供をもとにした分布調査を行う。

第 章 調 査 成 果

第 1 節 調 査 概 要

調査は、4月中旬から12月初旬まで実施した。対象地区は、市内全域とし、特に開発が予想される地域とその周辺を重点的に現地踏査を行い、畑地や露頭など地表面や断面の観察が可能な地点を調査した。

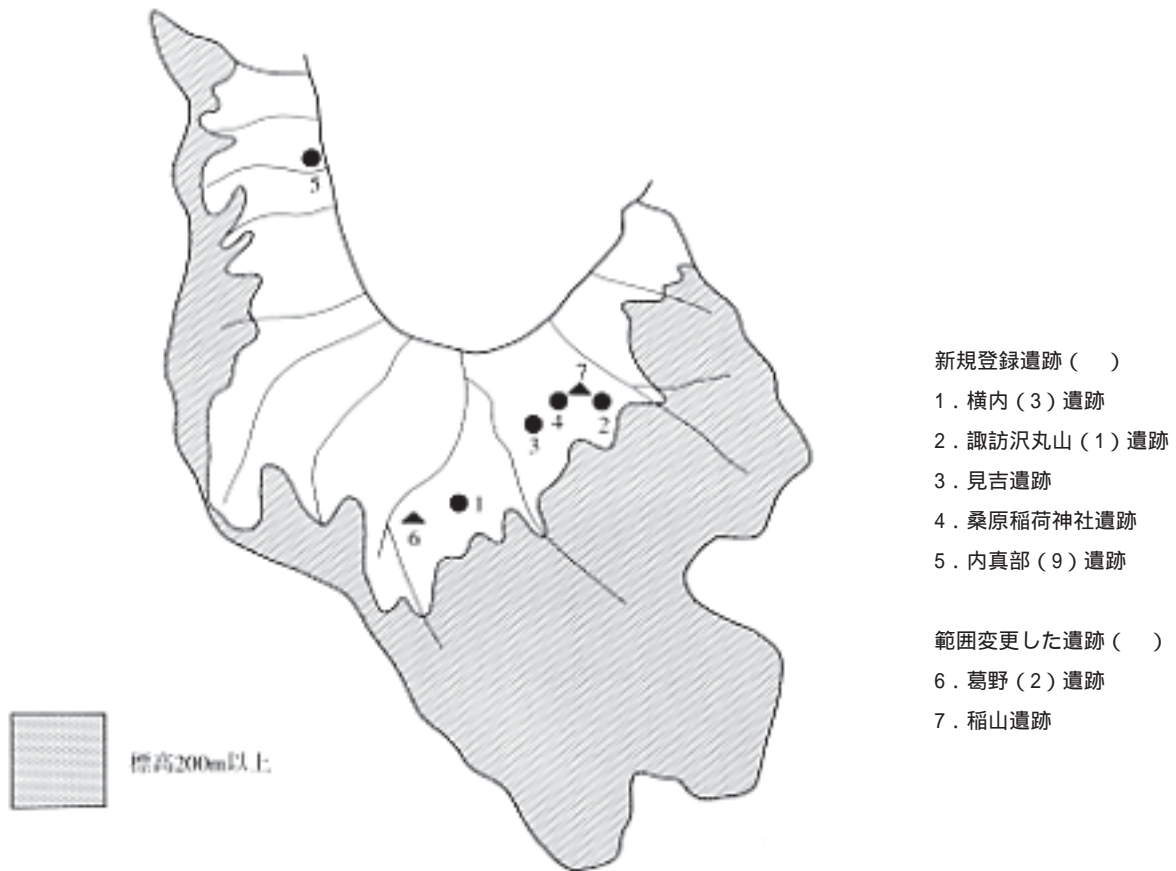
また開発申請のあった地区の現地立ち会いやその周辺の踏査、一般市民の情報提供をもとにした周辺調査を行った。今年度の概要は次のとおりである。

調査の結果、新たに発見した遺跡は、次の5遺跡である。

- 横内地区 横内(3)遺跡
- 諏訪沢地区 諏訪沢丸山(1)遺跡
- 駒込地区 見吉遺跡
- 桑原地区 桑原神社遺跡
- 内真部地区 内真部(9)遺跡

また、今年度の当委員会が行った発掘調査の結果により、次の遺跡について、範囲を変更した。

- 大別内地区 葛野(2)遺跡 拡張
- 諏訪沢地区 稲山遺跡 拡張



第1図 位置図

第2節 新規登録遺跡

遺跡名	横内(3)遺跡	立地	丘陵
遺跡番号	01293	現況	畑地
所在地	青森市大字横内字亀井	時代	平安時代
種別	散布地	遺物	土師器



写真1 近景



位置図1

遺跡名	諏訪沢丸山(1)遺跡	立地	丘陵
遺跡番号	01294	現況	山林
所在地	青森市大字諏訪沢字丸山	時代	縄文時代・平安時代
種別	散布地	遺物	縄文土器・土師器



写真2 近景



位置図2

遺跡名	見吉遺跡	立地	丘陵
遺跡番号	01295	現況	畑地
所在地	青森市大字駒込字蛭沢	時代	平安時代
種別	散布地	遺物	土師器



写真3 遠景



位置図3

遺跡名	桑原稻荷神社遺跡	立地	丘陵
遺跡番号	01296	現況	神社・山林
所在地	青森市大字桑原字稲葉	時代	平安時代
種別	散布地	遺物	土師器



写真4 近景



位置図4

遺跡名	内真部(9)遺跡	立地	平野
遺跡番号	01297	現況	水田
所在地	青森市大字内真部字岸田	時代	平安時代
種別	散布地	遺物	製塩土器、支脚



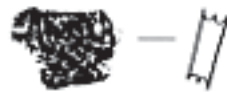
写真5 近景



位置図5



1. 横内(3)



2. 横内(3)



3. 横内(3)



4. 諏訪沢丸山(1)



5. 諏訪沢丸山(1)



6. 内真部(9)



7. 内真部(9)



8. 内真部(9)



第2図 表面採集資料



1. 横内 (3)



2. 横内 (3)



3. 横内 (3)



4. 諏訪沢丸山 (1)



5. 諏訪沢丸山 (1)



6. 内真部 (9)



7. 内真部 (9)



8. 内真部 (9)

表面採集資料

第3節 遺跡範囲を変更した遺跡

拡張した遺跡

遺跡名	葛野(2)遺跡	立地	丘陵
遺跡番号	01218	現況	畑地
所在地	青森市大字大別内字葛野	時代	縄文時代前期・平安時代
種別	集落跡	備考	今年度の発掘調査成果による (網かけ部分が拡張範囲)



写真6 近景



位置図6

遺跡名	稲山遺跡	立地	丘陵
遺跡番号	01042	現況	山林
所在地	青森市大字諏訪沢字山辺	時代	縄文時代前期・後期
種別	集落跡	備考	今年度の発掘調査成果による (網かけ部分が拡張範囲)



写真7 近景



位置図7

第 章 青森市内の遺跡と表層地質の関係について

当委員会では、平成8年度から、市内遺跡詳細分布調査報告書において、遺跡立地条件における環境的要因をテーマとして遺跡の分布についての考察を行ってきている。今回は遺跡周辺の表層地質から青森市内における遺跡の分布を考えてみたい。

青森市内には、平成10年度の新規登録遺跡を含め、297箇所の遺跡が確認されている。毎年、市内の各地で発掘調査が行われているが、調査の際、遺構が掘り込まれている地山に着目すると、粘土質、砂質のロームを地山とする青森市西部から南東部、礫が混入する赤褐色、黄褐色の土を地山とする青森市東部というように地山を構成する土質には相違がみられることがわかる。

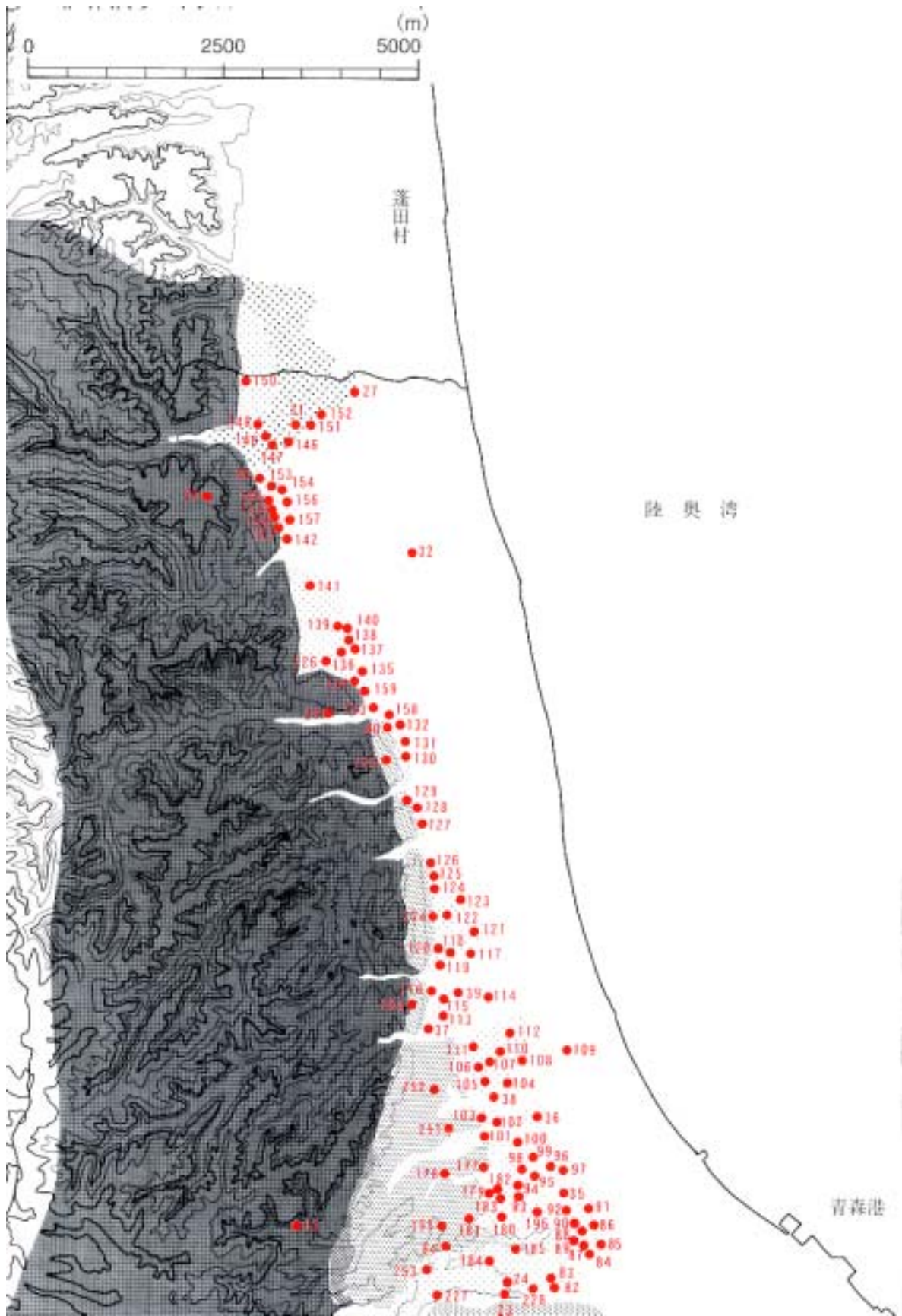
たとえば、竪穴式住居、掘立柱建物、土坑などを構築する際、地山を掘り込んで底面とする場合が多いものと思われる。砂質ロームのような地山と、礫によって構成される地山を比較すれば、砂質ロームの方が竪穴の掘削作業において労力が少ないと思われ、竪穴式住居や土坑などを構築しやすいことが想定できる。竪穴式住居などを構築しやすいということは、集落となる土地を選定する上で重要な条件になりうると思われる。青森市内の遺跡の多くは、丘陵地上に立地するものであり、丘陵地を形成した様々な地殻運動の影響は、地域によって差異があったものと考えられ、それは各地域の表層地質からみてとれる。本項では、5万分の1の『青森県遺跡地図』（青森県教育委員会 1998）をもとに、青森市を浅虫、青森東部、青森西部、油川と区分し、それぞれの地区の表層地質図（青森県 1985、1983、1982、1984）を重ねて、遺跡の分布と表層地質との関連性を調べた。なお、上辺は全て北に統一してある。（第3図～第6図）

油川地域（第3図）

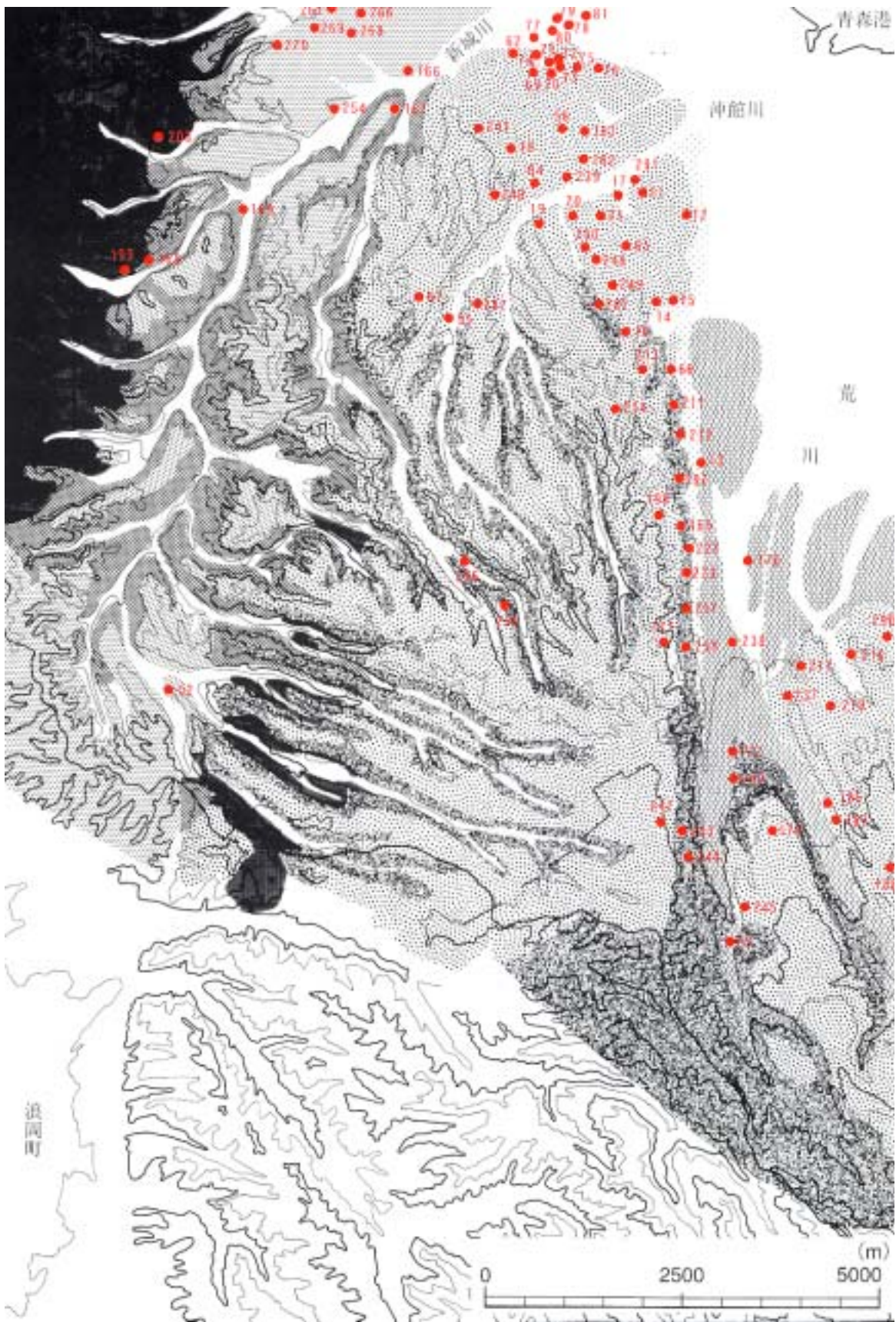
油川地域は、地形的に津軽半島を南北に走る中山山脈の一部にあたる大倉岳山地につづく蓬田丘陵と飛鳥山丘陵、浪館台地に連続する砂礫台地である野木和台地、陸奥湾の沿岸に南北に細長くはしる青森平野の延長部に大きく分けることができる。

蓬田丘陵と飛鳥山丘陵は、標高100m前後の比較的緩傾斜の丘陵で、軽石質凝灰岩、砂岩・シルト岩によって構成されている。平野と丘陵の遷移部には、丘陵に源を発する河川によって運搬された礫・砂によって形成された扇状地状の地形や段丘がいくつもみられる。野木和台地は、砂礫台地で、粘土・砂・礫によって構成されている。

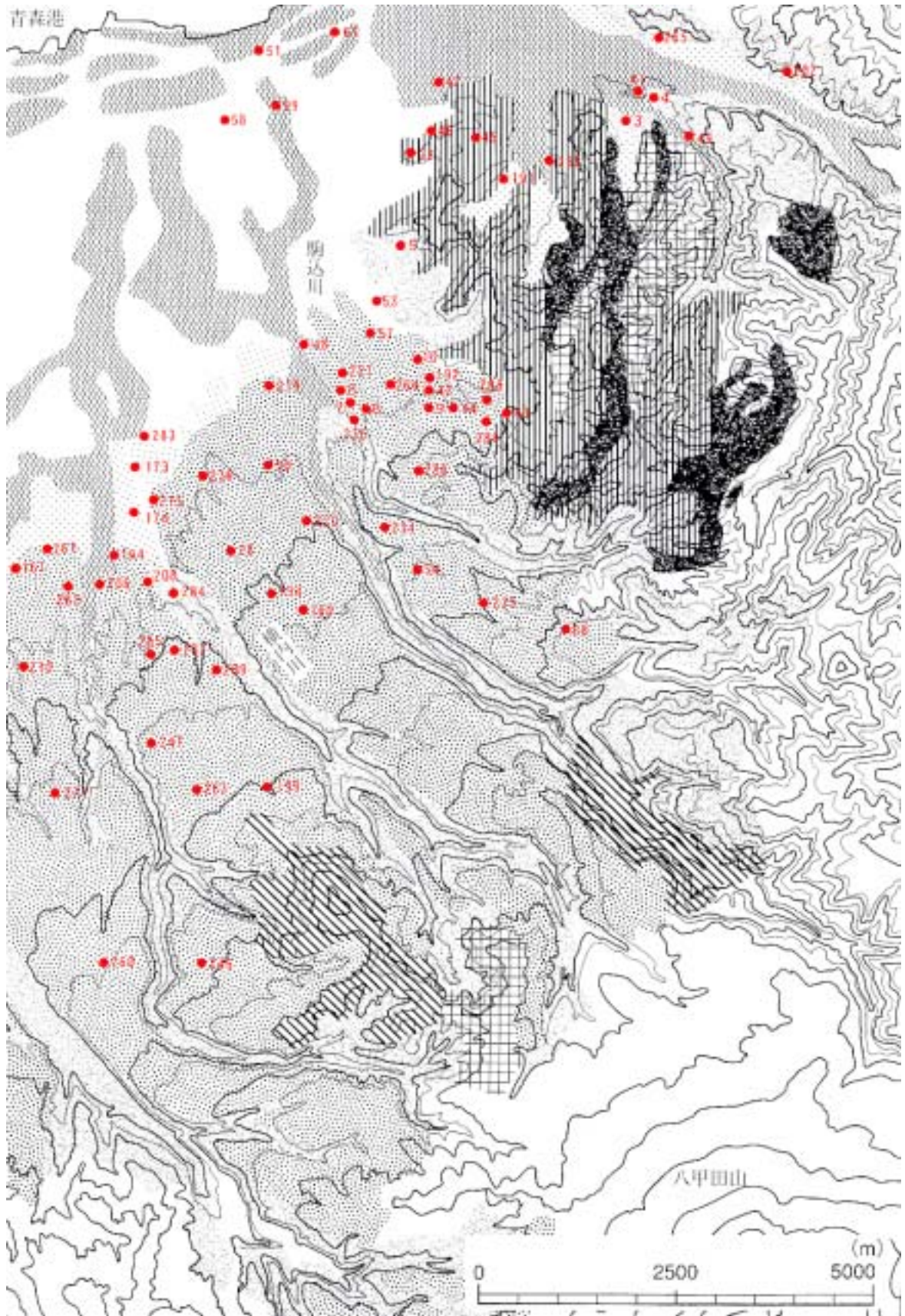
遺跡は、礫・砂や粘土・礫・砂によって構成される野木和台地上の平坦部、丘陵と平野の遷移部にあたる扇状地状の微高地や段丘面に集中的に分布しており、それらは約50遺跡である。野木和台地上の平坦部に分布する遺跡は、縄文時代前期、後期、平安時代に属するものが多く、その他の扇状地状の微高地や段丘面に分布する遺跡は、縄文時代前期、平安時代に属するものが多い。特異な立地を示す遺跡に、中世に属する尻八館遺跡（01026）、縄文前期・平安時代に属する大科支線口遺跡（01029）、縄文後期・平安時代に属する山城遺跡（01030）、縄文後期に属する田沢森遺跡（01033）、中・近世に属する飛鳥山館遺跡（01204）がある。これらの遺跡は、砂岩・シルト岩によって構成される蓬田丘陵、飛鳥山丘陵に立地する。尻八館遺跡は、後瀧川と六枚橋川に挟まれた丘陵の頂部に位置しており、14から15世紀まで存続していた館跡と考えられている。



第3図 油川地域



第4図 青森西部地域



第5図 青森東部地域



第6図 浅虫地域

未固結堆積物

- 泥・砂
- 礫・砂
- 粘土・礫 (泥流堆積物)
- 粘土・砂・礫
- 粘土・礫
- 火山灰
- 軽石流堆積物

固結堆積物

- 軽石質凝灰岩
- 砂岩・シルト岩
- 流紋岩質凝灰石
- 泥岩
- 凝灰石・凝灰角礫岩
- 変朽安山岩・同質火砕岩
- 熔結凝灰岩
- 石英安山岩
- 流紋岩
- 安山岩

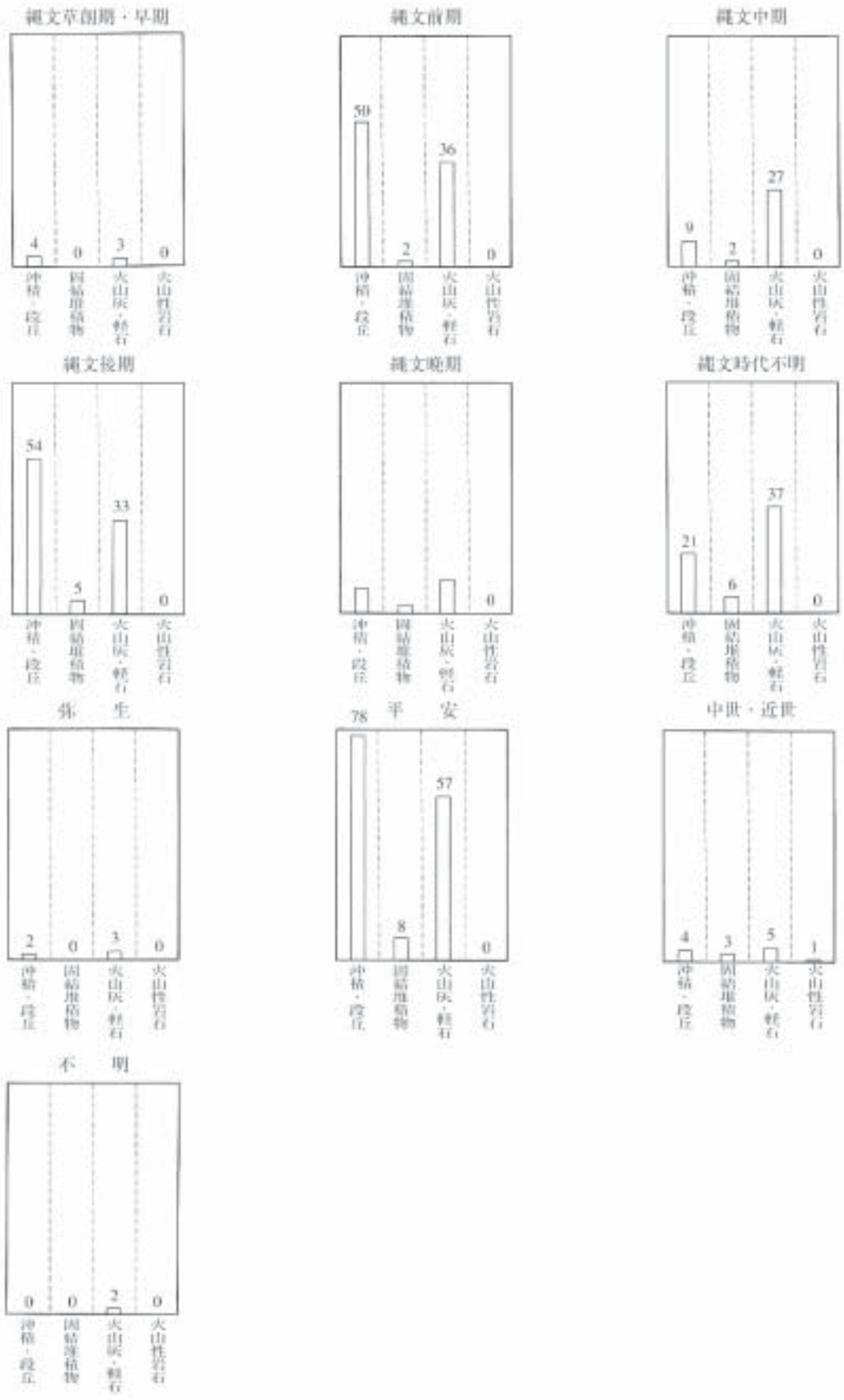
凡 例

時期	番号	遺跡名	表層地質	時期	番号	遺跡名	表層地質	時期	番号	遺跡名	表層地質	
縄文 草創・ 早期	01038	大堤遺跡	礫・砂	前	01164	横内(1)遺跡	火山灰	後	01072	高間(3)遺跡	粘・砂	
	01055	熊沢遺跡	泥・砂		01176	小牧野遺跡	"		01073	高間(4)遺跡	"	
	01057	蛭沢遺跡	火山灰		01178	羽白沢田(2)遺跡	粘・砂		01073	高間(5)遺跡	"	
	01064	三内沢部(1)遺跡	"		01181	野木和(14)遺跡	"		01077	西バイパス(1)遺跡	泥・砂	
	01078	西バイパス(2)遺跡	泥・砂		01185	宮本(2)遺跡	礫・砂		01078	西バイパス(2)遺跡	"	
	01094	野木和(6)遺跡	礫・砂		01186	山吹(1)遺跡	火山灰		01082	岡町(2)遺跡	礫・砂	
	01215	四ツ石遺跡	火山灰		01189	玉水遺跡	礫・砂		01083	岡町(3)遺跡	"	
	前	01003	築木館岩瀬遺跡		熔	01234	深沢(2)遺跡		火山灰	01084	岡町(4)遺跡	"
		01004	築木館布引遺跡		"	01243	亀山(2)遺跡		熔	01085	岡町(5)遺跡	"
		01005	戸山遺跡		火山灰	01245	桜刈(1)遺跡		火山灰	01086	岡町(6)遺跡	"
		01008	玉清水(3)遺跡		"	01249	三内丸山(4)遺跡		"	01087	岡町(7)遺跡	"
		01010	月見野遺跡		"	01271	山口遺跡		"	01088	岡町(8)遺跡	"
01011		浪館(1)遺跡	"	01280	玉水(4)遺跡	礫・砂	01089	岡町(9)遺跡	"			
01014		安田近野(1)遺跡	"	01281	上野尻遺跡	"	01090	野木和(2)遺跡	"			
01015		安田(1)遺跡	"	01288	沢山平野(1)遺跡	火山灰	01091	野木和(3)遺跡	"			
01016		安田(2)遺跡	"	01289	沢山平野(2)遺跡	"	01092	野木和(4)遺跡	"			
01017		小三内遺跡	"	01004	築木館布引遺跡	熔	01093	野木和(5)遺跡	"			
01018		三内霊園遺跡	"	01005	戸山遺跡	火山灰	01094	野木和(6)遺跡	"			
01019		三内遺跡	"	01012	浪館(2)遺跡	"	01095	野木和(7)遺跡	"			
01020	三内丸山(1)遺跡	"	01014	安田近野(1)遺跡	"	01096	野木和(8)遺跡	"				
01021	三内丸山(2)遺跡	"	01017	小三内遺跡	"	01097	野木和(9)遺跡	"				
01025	入内遺跡	泥・砂	01018	三内霊園遺跡	"	01098	野木和(10)遺跡	"				
01029	大科支線口遺跡	砂・シ	01019	三内遺跡	"	01100	西田沢(2)遺跡	"				
01031	後潟(1)遺跡	粘・礫	01020	三内丸山(1)遺跡	"	01102	西田沢(4)遺跡	"				
01034	野木和(1)遺跡	火山灰	01021	三内丸山(2)遺跡	"	01103	西田沢(5)遺跡	粘・砂				
01036	油川城跡	礫・砂	01024	天田内遺跡	礫・砂	01105	夏井田(2)遺跡	"				
01038	大堤遺跡	"	01028	四ツ石(1)遺跡	火山灰	01106	夏井田(3)遺跡	"				
01039	山辺遺跡	泥・砂	01034	野木和(1)遺跡	粘・砂	01107	夏井田(4)遺跡	"				
01040	内真部(1)遺跡	火山灰	01054	梨の木平遺跡	火山灰	01108	夏井田(5)遺跡	"				
01045	稲山遺跡	流	01055	熊沢遺跡	泥・砂	01110	夏井田(7)遺跡	"				
01054	梨の木平遺跡	火山灰	01057	蛭沢遺跡	火山灰	01114	飛鳥(2)遺跡	泥・砂				
01055	熊沢遺跡	泥・砂	01064	三内沢部(1)遺跡	"	01116	飛鳥(4)遺跡	"				
01056	石江遺跡	火山灰	01065	近野遺跡	"	01117	瀬戸子(1)遺跡	"				
01057	蛭沢遺跡	"	01067	新城平岡(1)遺跡	泥・砂	01118	瀬戸子(2)遺跡	"				
01058	佃遺跡	泥・砂	01068	梨の木平牧場遺跡	火山灰	01119	瀬戸子(3)遺跡	"				
01064	三内沢部(1)遺跡	火山灰	01114	飛鳥(2)遺跡	泥・砂	01121	瀬戸子(5)遺跡	"				
01065	近野遺跡	"	01116	飛鳥(4)遺跡	礫・砂	01123	前田(2)遺跡	泥・砂				
01067	新城平岡(1)遺跡	泥・砂	01162	三内沢部(2)遺跡	火山灰	01125	前田(4)遺跡	礫・砂				
01070	高間(1)遺跡	火山灰	01177	羽白沢田(1)遺跡	粘・砂	01146	四戸橋(1)遺跡	泥・礫				
01071	高間(2)遺跡	"	01180	野木和(13)遺跡	礫・砂	01147	四戸橋(2)遺跡	"				
01073	高間(4)遺跡	"	01186	山吹(1)遺跡	火山灰	01149	四戸橋(4)遺跡	"				
01074	高間(5)遺跡	粘・砂	01191	牛蒡畑遺跡	礫・砂	01151	後潟(7)遺跡	"				
01077	西バイパス(1)遺跡	泥・砂	01194	四ツ石(2)遺跡	火山灰	01152	後潟(8)遺跡	"				
01078	西バイパス(2)遺跡	"	01243	亀山(2)遺跡	熔	01153	後潟(9)遺跡	礫・砂				
01082	岡町(2)遺跡	礫・砂	01245	桜刈(1)遺跡	火山灰	01158	内真部(8)遺跡	"				
01085	岡町(5)遺跡	"	01249	三内丸山(4)遺跡	"	01161	新町野遺跡	火山灰				
01086	岡町(6)遺跡	"	01250	三内丸山(5)遺跡	"	01176	小牧野遺跡	"				
01087	岡町(7)遺跡	"	01275	米山(1)遺跡	変 朽	01177	羽白沢田(1)遺跡	粘・砂				
01089	岡町(9)遺跡	"	01276	米山(2)遺跡	"	01179	野木和(12)遺跡	礫・砂				
01090	野木和(2)遺跡	"	01279	玉水(3)遺跡	礫・砂	01180	野木和(13)遺跡	礫・砂				
01092	野木和(4)遺跡	"	01280	玉水(4)遺跡	"	01182	野木和(15)遺跡	"				
01097	野木和(9)遺跡	"	01282	三内丸山(6)遺跡	軽 石	01183	野木和(16)遺跡	"				
01098	野木和(10)遺跡	"	01288	沢山平野(1)遺跡	火山灰	01186	山吹(1)遺跡	火山灰				
01100	西田沢(2)遺跡	"	01289	沢山平野(2)遺跡	"	01194	四ツ石(2)遺跡	"				
01102	西田沢(4)遺跡	"	01001	山野峠遺跡	安	01233	深沢(1)遺跡	"				
01104	夏井田(1)遺跡	"	01003	築木館岩瀬遺跡	熔	01234	深沢(2)遺跡	"				
01105	夏井田(2)遺跡	"	01004	築木館布引遺跡	"	01235	月見野(4)遺跡	"				
01106	夏井田(3)遺跡	"	01005	戸山遺跡	火山灰	01242	亀山(1)遺跡	"				
01107	夏井田(4)遺跡	"	01014	安田近野(1)遺跡	"	01245	桜刈(1)遺跡	"				
01108	夏井田(5)遺跡	"	01016	安田(2)遺跡	"	01271	山口遺跡	"				
01111	夏井田(8)遺跡	"	01017	小三内遺跡	"	01272	鈴森(1)遺跡	粘・礫				
01114	飛鳥(2)遺跡	泥・砂	01019	三内遺跡	"	01273	鈴森(2)遺跡	"				
01116	飛鳥(4)遺跡	礫・砂	01020	三内丸山(1)遺跡	"	01274	小金沢遺跡	礫・砂				
01120	瀬戸子(4)遺跡	"	01021	三内丸山(2)遺跡	"	01276	米山(2)遺跡	変 朽				
01127	前田(6)遺跡	"	01027	磯部遺跡	礫・砂	01279	玉水(3)遺跡	礫・砂				
01130	内真部(2)遺跡	泥・砂	01028	四ツ石(1)遺跡	火山灰	01282	三内丸山(6)遺跡	軽 石				
01136	小橋(1)遺跡	礫・砂	01030	山城遺跡	砂・シ	01002	長森遺跡	礫・砂				
01137	小橋(2)遺跡	"	01033	田沢森遺跡	"	01003	築木館岩瀬遺跡	熔				
01139	小橋(4)遺跡	"	01034	野木和(1)遺跡	粘・砂	01006	玉清水(1)遺跡	火山灰				
01145	後潟(5)遺跡	"	01038	大堤遺跡	礫・砂	01012	浪館(2)遺跡	"				
01148	四戸橋(3)遺跡	粘・礫	01040	内真部(1)遺跡	粘・砂	01013	細越遺跡	泥・砂				
01149	四戸橋(4)遺跡	"	01045	稲山遺跡	流	01023	岡町(1)遺跡	礫・砂				
01150	後潟(6)遺跡	礫・砂	01049	山の井遺跡	熔	01024	天田内遺跡	"				
01151	後潟(7)遺跡	粘・礫	01052	孫内遺跡	粘・砂	01035	野木和公園遺跡	"				
01152	後潟(8)遺跡	"	01055	熊沢遺跡	泥・砂	01042	沢山(1)遺跡	火山灰				
01153	後潟(9)遺跡	礫・砂	01057	蛭沢遺跡	火山灰	01052	孫内遺跡	粘・砂				
01154	後潟(10)遺跡	"	01064	三内沢部(1)遺跡	"	01054	梨の木平遺跡	火山灰				
01155	後潟(12)遺跡	"	01065	近野遺跡	"	01060	野内遺跡	粘・礫				
01161	新町野遺跡	火山灰	01069	新城平岡(2)遺跡	粘・砂	01063	大浦遺跡	安				
01163	江渡遺跡	泥・砂	01071	高間(2)遺跡	"	01065	近野遺跡	火山灰				

第8表(1)

時期	番号	遺跡名	表層地質	時期	番号	遺跡名	表層地質	時期	番号	遺跡名	表層地質
晩	01093	野木和(5)遺跡	礫・砂	平	01002	長森遺跡	礫・砂	平	01137	小橋(2)遺跡	礫・砂
	01160	田茂木野遺跡	火山灰		01003	築木館岩瀬遺跡	熔		01138	小橋(3)遺跡	"
	01166	新城山田遺跡	粘・砂		01009	月見野霊園遺跡	火山灰		01139	小橋(4)遺跡	"
	01184	宮本(1)遺跡	礫・砂		01013	細越遺跡	泥・砂		01140	小橋(5)遺跡	"
	01230	菖蒲沢(2)遺跡	粘・礫		01014	安田近野(1)遺跡	火山灰		01141	小橋(6)遺跡	"
	01242	亀山(1)遺跡	火山灰		01016	安田(2)遺跡	"		01142	後潟(2)遺跡	"
	01244	亀山(3)遺跡	熔		01017	小三内遺跡	"		01143	後潟(3)遺跡	"
	01250	三内丸山(5)遺跡	火山灰		01019	三内遺跡	"		01155	後潟(11)遺跡	"
	01275	米山(1)遺跡	変朽		01020	三内丸山(1)遺跡	"		01157	後潟(13)遺跡	"
期	01286	月見野(6)遺跡	火山灰	01021	三内丸山(2)遺跡	"	01159	内真部館遺跡	"		
	01288	沢山平野(1)遺跡	"	01024	天田内遺跡	礫・砂	01161	新町野遺跡	火山灰		
	01289	沢山平野(2)遺跡	"	01026	尻八館遺跡	砂・シ	01165	朝日山遺跡	軽石		
	01043	沢山(2)遺跡	流	01029	大科支線口遺跡	"	01166	新城山田遺跡	粘・砂		
	01046	桑原遺跡	"	01030	山城遺跡	"	01167	新城跡	"		
	01047	後菟遺跡	"	01032	不浪知遺跡	泥・砂	01168	土筆山館遺跡	砂・シ		
	01050	阿倍野遺跡	火山灰	01036	油川城跡	礫・砂	01177	羽白沢田(1)遺跡	粘・砂		
	01075	高間(6)遺跡	"	01037	西田沢(1)遺跡	"	01189	玉水遺跡	礫・砂		
	01076	岡部遺跡	"	01039	山辺遺跡	泥・砂	01190	宮田館跡	熔		
縄	01109	夏井田(6)遺跡	礫・砂	01040	内真部(1)遺跡	粘・砂	01191	牛蒡畑遺跡	礫・砂		
	01112	夏井田(9)遺跡	"	01041	築木館遺跡	熔	01197	朝日山(2)遺跡	軽石		
	01113	飛鳥(1)遺跡	"	01043	沢山(2)遺跡	流	01198	朝日山(3)遺跡	火山灰		
	01115	飛鳥(3)遺跡	"	01044	沢山(3)遺跡	火山灰	01210	野木遺跡	"		
	01122	前田(1)遺跡	"	01047	後菟遺跡	流	01211	栄山(1)遺跡	軽石		
	01134	内真部(6)遺跡	"	01048	駒込館遺跡	火山灰	01212	栄山(2)遺跡	"		
	01140	小橋(5)遺跡	"	01050	阿倍野遺跡	"	01213	栄山(3)遺跡	火山灰		
	01144	後潟(4)遺跡	"	01051	沢田遺跡	泥・砂	01214	栄山(4)遺跡	"		
	01165	朝日山遺跡	軽石	01053	赤坂遺跡	熔	01216	野木沢田遺跡	"		
文	01187	山吹(2)遺跡	火山灰	01057	蛭沢遺跡	火山灰	01218	葛野(2)遺跡	"		
	01188	山吹(3)遺跡	"	01059	小柳遺跡	泥・砂	01219	阿倍野(2)遺跡	"		
	01193	土筆山(1)遺跡	砂・シ	01061	露草遺跡	"	01220	阿倍野(3)遺跡	"		
	01195	野木和(17)遺跡	粘・砂	01062	西高校遺跡	粘・砂	01221	月見野(3)遺跡	"		
	01196	野木和(18)遺跡	礫・砂	01064	三内沢部(1)遺跡	火山灰	01222	朝日山(4)遺跡	軽石		
	01197	朝日山(2)遺跡	軽石	01065	近野遺跡	"	01223	朝日山(5)遺跡	"		
	01198	朝日山(3)遺跡	火山灰	01066	細越館遺跡	"	01228	天田内(3)遺跡	礫・砂		
	01199	雲谷山吹(1)遺跡	"	01069	新城平岡(2)遺跡	"	01237	山吹(4)遺跡	火山灰		
	01200	久栗坂浜田(1)遺跡	泥・砂	01072	高間(3)遺跡	"	01238	川瀬(1)遺跡	泥・砂		
時	01201	久栗坂浜田(2)遺跡	"	01075	高間(6)遺跡	"	01239	三内沢部(3)遺跡	火山灰		
	01202	宮田山下(1)遺跡	熔	01077	西バイパス(1)遺跡	泥・砂	01240	三内沢部(4)遺跡	"		
	01203	新城山田(2)遺跡	砂・シ	01078	西バイパス(2)遺跡	"	01241	新城平岡(3)遺跡	"		
	01206	横内(2)遺跡	火山灰	01079	西バイパス(3)遺跡	"	01243	亀山(2)遺跡	"		
	01207	桜峯(1)遺跡	"	01080	西バイパス(4)遺跡	"	01247	雲谷山崎(1)遺跡	"		
	01208	桜峯(2)遺跡	"	01081	西バイパス(5)遺跡	"	01248	三内丸山(3)遺跡	"		
	01209	鏡山遺跡	"	01082	岡町(2)遺跡	礫・砂	01249	三内丸山(4)遺跡	"		
	01210	野木遺跡	"	01083	岡町(3)遺跡	"	01254	新城山田(3)遺跡	"		
	01212	栄山(2)遺跡	軽石	01084	岡町(4)遺跡	"	01257	朝日山(6)遺跡	軽石		
期	01213	栄山(3)遺跡	火山灰	01085	岡町(5)遺跡	"	01258	朝日山(7)遺跡	"		
	01217	葛野(1)遺跡	"	01086	岡町(6)遺跡	"	01262	合子沢松森(2)遺跡	火山灰		
	01218	葛野(2)遺跡	"	01087	岡町(7)遺跡	"	01266	新城山田(4)遺跡	粘・砂		
	01221	月見野(3)遺跡	"	01088	岡町(8)遺跡	"	01267	新城山田(5)遺跡	"		
	01224	前田(8)遺跡	粘・砂	01089	岡町(9)遺跡	"	01268	新城山田(6)遺跡	"		
	01226	小橋(7)遺跡	礫・砂	01091	野木和(3)遺跡	"	01269	新城山田(7)遺跡	"		
	01227	天田内(2)遺跡	"	01096	野木和(8)遺跡	"	01270	新城山田(8)遺跡	"		
	01228	天田内(3)遺跡	"	01098	野木和(10)遺跡	"	01271	山口遺跡	火山灰		
	01229	菖蒲沢(1)遺跡	粘・礫	01099	野木和(11)遺跡	"	01275	米山(1)遺跡	変朽		
不	01231	宮田米山(1)遺跡	"	01100	西田沢(2)遺跡	"	01276	米山(2)遺跡	"		
	01232	諏訪沢山辺(1)遺跡	流	01101	西田沢(3)遺跡	"	01277	山下遺跡	泥・砂		
	01236	大矢沢里見(1)遺跡	火山灰	01103	西田沢(5)遺跡	粘・砂	01278	玉水(2)遺跡	粘・礫		
	01237	山吹(4)遺跡	"	01104	夏井田(1)遺跡	礫・砂	01279	玉水(3)遺跡	礫・砂		
	01239	三内沢部(3)遺跡	"	01107	夏井田(4)遺跡	"	01281	上野尻遺跡	"		
	01246	合子沢山崎(1)遺跡	"	01108	夏井田(5)遺跡	"	01283	野尻野田(1)遺跡	"		
	01247	雲谷山崎(1)遺跡	"	01111	夏井田(8)遺跡	"	01284	横内猿沢(1)遺跡	火山灰		
	01251	西田沢(6)遺跡	粘・砂	01112	夏井田(9)遺跡	"	01287	岩渡小谷遺跡	"		
	01252	西田沢(7)遺跡	"	01114	飛鳥(2)遺跡	泥・砂	01289	沢山平野(2)遺跡	"		
明	01253	天田内(4)遺跡	礫・砂	01116	飛鳥(4)遺跡	礫・砂	01290	野木山口(1)遺跡	"		
	01255	二股(1)遺跡	軽石	01118	瀬戸子(2)遺跡	"	01291	三内丸山(7)遺跡	"		
	01256	二股(2)遺跡	泥・砂	01121	瀬戸子(5)遺跡	"	01021	戸崎館遺跡	流		
	01259	桜刈(2)遺跡	火山灰	01123	前田(2)遺跡	泥・砂	01165	朝日山遺跡	軽石		
	01260	野木(2)遺跡	"	01124	前田(3)遺跡	礫・砂	01169	戸門館遺跡	軽凝		
	01261	合子沢松森(1)遺跡	"	01125	前田(4)遺跡	"	01170	高田城跡	泥・砂		
	01263	雲谷山吹(2)遺跡	"	01126	前田(5)遺跡	"	01171	高田蝦夷館跡	火山灰		
	01264	月見野(5)遺跡	"	01127	前田(6)遺跡	"	01172	小館遺跡	"		
	01265	扇沢遺跡	礫・砂	01128	前田(7)遺跡	"	01173	野尻館遺跡	礫・砂		
弥	01266	新城山田(4)遺跡	粘・砂	01129	前田蝦夷館遺跡	粘・砂	01174	横内城跡	"		
	01285	雲谷山吹(3)遺跡	火山灰	01130	内真部(2)遺跡	泥・砂	01175	多宇末井館遺跡	石英		
	01287	岩渡小谷遺跡	"	01131	内真部(3)遺跡	"	01190	宮田館跡	熔		
	01016	安田(2)遺跡	"	01132	内真部(4)遺跡	"	01204	飛鳥山館	砂・シ		
	01057	蛭沢遺跡	"	01133	内真部(5)遺跡	"	01225	湯ノ沢館遺跡	粘・砂		
	01062	西高校遺跡	粘・砂	01134	内真部(6)遺跡	礫・砂	01273	鈴森(2)遺跡	粘・礫		
	01191	牛蒡畑遺跡	礫・砂	01135	内真部(7)遺跡	"	01007	玉清水(2)遺跡	火山灰		
	01213	栄山(3)遺跡	火山灰	01136	小橋(1)遺跡	"	01192	月見野(2)遺跡	"		

第8表(2)



第7図

青森西部（第4図）

青森西部は、地形的に青森平野西部、平野の南方にひろがる火山性台地の西端部、津軽半島を南北にはしる中山山脈の南端部にあたる梵珠山地、梵珠山地西南の大釈迦丘陵、海成段丘を中心とした浪館台地に大きく分けることができる。平野部の荒川、高田、金浜、細越付近は、荒川、入内川に運ばれてきた砂・礫によって形成された自然堤防が発達しており、河川沿いの微高地となっている。それ以外の平野部は、泥・砂によって構成される沖積低地である。平野の南方には、火山灰など八甲田火山噴出物によって構成される火山性台地がひろがっている。この八甲田火山群を起源とする火山灰は、浪館台地、大釈迦丘陵の低位部においても広く分布している。梵珠山地は、標高300～500mの比較的急峻な山地で、砂岩・シルト岩によって構成されている。青森平野西側の新城、土筆山付近には、梵珠山地から延びる、粘土・砂・礫によって構成された丘陵地がひろがっている。大釈迦丘陵は、標高100～200mの比較的緩傾斜の丘陵で、凝灰岩とその上を覆う八甲田火山群を起源とする火山灰や軽石流堆積物によって構成されている。低位部や東端部には、八甲田火山群を起源とする軽石流堆積物がみられ、中位部から高位部には、粘土・礫・砂（岡町層）がみられる。浪館台地は海成台地を中心とした砂礫台地で、その上を八甲田火山群を起源とする火山灰が覆う。

遺跡は、八甲田火山群を起源とする火山灰によって覆われている火山性台地の西端部や浪館台地、同じく八甲田火山群を起源とする軽石流堆積物が基盤を構成する大釈迦丘陵の東縁部に集中的に分布しており、それらは約50遺跡である。遺跡が属する時期については、縄文時代前期から中期、後期、平安時代にわたって存続していた遺跡が多く、大釈迦丘陵の東端部に分布する遺跡は、平安時代に属する遺跡が多い。

また、少数ではあるが、砂・礫によって形成された荒川流域の自然堤防、粘土・礫・砂によって構成される新城付近の丘陵地にも遺跡の分布がみられ、それらは、平安時代から中世に属する遺跡が多い。特異な立地を呈する例として、砂岩・シルト岩、軽石質凝灰岩によって構成される梵珠山地の低位部に立地する土筆山館遺跡（01168）、戸門館遺跡（01169）、土筆山（1）遺跡（01193）、新城山田（2）遺跡（01203）がある。土筆山館遺跡、戸門館遺跡は、平安時代から中世にかけての館跡である。土筆山（1）遺跡、新城山田（2）遺跡は、縄文時代の遺跡である。

青森東部（第5図）

青森東部は、地形的に青森平野東部、平野の南方に広がる火山性台地、平野の東方の山地や丘陵に大きく分けることができる。平野部は、野内川の扇状地のほか、荒川、駒込川、赤川流域が、砂・礫によって形成された自然堤防となっており、それ以外の部分は、泥・砂によって沖積低地が形成されている。河川の流域は、砂・礫の堆積によって形成された自然堤防が発達し、それ以外の低地は、泥・砂が基盤となっている。赤川と入内川に挟まれ、平野部の南から南東部に広がる火山性台地は、八甲田火山噴出物によって構成されており、緩やかな傾斜の平坦面を有する。表土の直下は火山灰で、その下位には田代平熔結凝灰岩が存在する。またこの台地はいくつかの河川によって開析されており、その結果形成された谷底平野がみられる。平野部付近では、砂・礫の堆積がみられる。沢山、後蕨、諏訪沢地区は、平野部の東部の山地や丘陵にあたり、流紋岩質凝灰岩、泥岩によって構成されている。

遺跡は、緩やかな傾斜の平坦面をもち、八甲田火山噴出物によって構成される火山性台地上に主に分布している。それらの遺跡は、縄文時代前期、中期、後期、平安時代というように帰属時期が多岐にわ

たっている。また、荒川、駒込川流域などの河川の侵食、運搬作用の結果、砂・礫によって構成された山間部の谷底平野や平野部の自然堤防上、流紋岩質凝灰岩（和田川層）によって構成された桑原、沢山、諏訪沢周辺の丘陵部の裾野にも、少数ではあるが、遺跡の分布がみられる。それらは平安時代に所属するものが多い。特異な立地を示す例として、沢田遺跡（01051）、佃遺跡（01058）がある。2遺跡は沖積低地堆積物である泥・砂によって構成される平野部に位置している。沢田遺跡は1971年に調査が行われ、平安時代の遺跡と確認されており、擦文土器が出土している。

浅虫地域（第6図）

浅虫地域は、地形的に大きく分けて、いくつかの河川によって形成された扇状地と、東岳を中心とした比較的起伏のある山地とに分けられる。野内、宮田、矢田地区付近は、野内川によって形成された扇状地で、青森平野の東端部にあたり、砂・礫によって構成されている。山地は、主として、凝灰岩・凝灰角礫岩（四ツ沢層）、変朽安山岩・同質火砕岩（金ヶ沢層）によって構成されており、浅虫温泉付近の高森山周辺は石英安山岩や流紋岩、久栗坂付近の高山周辺は、安山岩によって構成されている。このような山地地形と扇状地地形の遷移部には、山地の岩石が崩壊して風化した堆積物である粘土・小礫（崖錐堆積物）が分布している。

砂・礫によって構成される野内川流域の扇状地地形、粘土・礫によって構成される山地や丘陵の裾野に遺跡が数多く分布しており、それらは、縄文時代の後期以降と平安時代に属する遺跡が多い。また、特異な立地を示す遺跡に山野峠遺跡（01001）、大浦遺跡（01063）、多宇末井館跡（01175）がある。山野峠遺跡は、安山岩によって構成される高山周辺に位置しており、縄文時代後期前葉の再葬土器棺墓群、石棺墓群が検出されている。大浦遺跡は、高山に連なる鼻繰崎の裾部の海岸部に位置しており、縄文時代晩期の貝塚、製塩跡が検出されている。多宇末井館跡（01175）は、浅虫と久栗板の間の谷地山から北東に延びる、流紋岩によって構成される丘陵に立地する中世の要害で、『吾妻鏡』にみられる多宇末井之梯についての記事との関連が推定されている。

青森市の地形を構成する堆積物や岩石は様々で、それらは大きく分けて、未固結堆積物、固結堆積物、に分けられる。未固結堆積物は、第四紀以降の堆積物で、平野部の基盤を構成する泥・砂、扇状地や自然堤防、河岸段丘を構成する礫・砂、浅虫地域の丘陵の裾部にみられる粘土・小礫、野木和台地や大釈迦丘陵の中位部から高位部の段丘面にみられる粘土・砂・礫などの沖積地や段丘面の堆積物のほか、青森平野南側の火山性台地や浪館台地、大釈迦丘陵を覆う火山灰、大釈迦丘陵と東縁の裾部にみられる軽石流堆積物などの八甲田火山起源の堆積物が挙げられる（註1）。固結堆積物は、第四紀以前の堆積物で、山地や丘陵地においてみられ、浅虫地域の凝灰岩・凝灰角礫岩（四ツ沢層）、変朽安山岩・同質凝灰岩（金ヶ沢層）、青森東部の沢山、後范、諏訪沢周辺の山地にみられる流紋岩質凝灰岩、泥岩、青森西部、油川地域にみられる中山山脈を構成する砂岩・シルト岩、大釈迦丘陵の中位部の段丘面にみられる軽石質凝灰岩、浅虫地域や青森東部の山地にみられる安山岩、石英安山岩、流紋岩、青森平野南部にひろがる熔結凝灰岩が挙げられる。

このように青森市の地形を構成する堆積物や岩石を概観すると、平野部の河川流域の自然堤防や河岸段丘、丘陵から延びる台地などの地形を構成する地質は、粘土、砂、小礫、火山灰などの未固結堆積物のように、侵食、運搬作用を受けやすいと思われ、山地や急傾斜な丘陵は、固結堆積物のように岩石質

である。

第7図は、縄文時代から近世までの各時期において、遺跡が立地している地質の種類毎にその数をまとめたものであるが、これをみると、どの時期においても粘土、砂、小礫、火山灰などの未固結堆積物によって構成される土地に立地する遺跡が多いという結果がみてとれる。ここで、住居や建物、墓、貯蔵施設の構築など、掘削という行為が数多く行われることが想定される集落に限定すれば、粘土や砂、火山灰などによって構成されている土地の場合、住居や掘立柱建物などの構築、竪穴や柱穴などの掘削、墓穴、貯蔵穴の掘削において、固結堆積物によって構成される土地よりも、労力が少なく済むという利点が想定できる。しかし、未固結堆積物によって構成されている土地は、河川によって形成された河岸段丘や自然堤防、扇状地状の微高地、丘陵裾部の緩やかに傾斜地、八甲田山からのびる火山性台地など、平坦面を有する地形であり、急傾斜な土地に比べれば、平坦な土地の方が集落を営む土地として適当であると自然に考えられることから、地質的な側面のほか、地形的な側面からみても好条件が備わっているということがいえる。土地を構成する岩石や堆積物は、その形成過程から、沖積地や段丘、台地などの平坦面をもつ地形は未固結堆積物、急傾斜な山地は固結堆積物によって構成されており、地質と地形には相関を認めることができ、平坦面をもつ土地を選定すれば、大抵の場合、地質的な条件が自動的にクリアされていたはずである。従って、青森市内において、未固結堆積物によって構成される土地に、多くの遺跡が立地しているという傾向は、地質的な側面から想定される利点のみによって選定されたことをあらわしているとは考えにくい。

少数ではあるが、固結堆積物によって構成される土地に立地する遺跡に着目すると(第9表)、後期以降の縄文時代、平安時代、中世を所属時期とする遺跡が多いという傾向が看取できる。縄文時代においては、定住生活の起点となる集落からはずれて、集落と有機的なつながりをもつ、祭祀、生業などに関する様々な集落外施設が存在していたことが各地の発掘調査の結果によって、明らかにされている。これらの出現は、とくに後期以降が顕著である。祭祀に関する集落外施設に関しては、とくに、この時期を境として起こる急激な気候変化と生態系の変化とも関連し、中期までの拠点的な大規模集落における集住形態から、その集住集団の拡散によって形成された小規模集落における分住形態への移行に伴い、大規模な配石遺構など、拡散した集団間を取り結ぶ象徴的な意味合いをもつと思われる、集落外施設の出現が顕著となる。これらは、主として葬送祭祀に関する施設で、拡散して分住する集団が集まり、共同

砂岩・シルト岩		
01026	尻八館遺跡	平安・中世
01029	大科支線口遺跡	縄文(前)・平安
01030	山城遺跡	縄文(後)・平安
01033	田沢森遺跡	縄文(後)
01204	飛鳥山館遺跡	中世・近世
流紋岩質凝灰岩		
01022	戸崎館遺跡	中世
01043	沢山(2)遺跡	縄文・平安
01045	稲山遺跡	縄文(前・後)
01046	桑原遺跡	縄文
01047	後菴遺跡	縄文・平安
01232	諏訪沢山辺遺跡	縄文
砂岩・シルト岩・軽石質凝灰岩		
01168	土筆山館遺跡	平安
01169	戸門館遺跡	中世
01193	土筆山遺跡	縄文
01203	新城山田(2)遺跡	縄文
安山岩		
01001	山野峠遺跡	縄文(後)
01063	大浦遺跡	縄文(晩)
流紋岩		
01175	多宇末井館遺跡	中世
熔結凝灰岩		
01003	築木館岩瀬遺跡	縄文(前・後・晩)、平安
01004	築木館布引遺跡	縄文(前・中・後)
01041	築木館遺跡	平安
01049	山の井遺跡	縄文(後)
01053	赤坂遺跡	平安
01190	宮田館跡	古代・中世
01243	亀山(2)遺跡	縄文(前・中)
01244	亀山(3)遺跡	縄文(晩)

第9表 固結堆積物・火山性岩石に立地する遺跡

で施設を構築し、共同で祭祀を行うことで、分住する集団の結束が図られていたと考えられる。また、生業に関する集落外施設についても、後期以降、集住形態から分住形態への移行に伴い、製塩などの専門作業の運用によって、分住集団が食料資源を相互に補完しあうことで、集団の結束が図られたと考えられ、葬送祭祀に関する集落外施設と同様の効果が想定できる。安山岩を基盤とする山野峠遺跡からは、かなりの角度をもつ急斜面から、縄文時代後期前半の再葬土器棺墓群と石棺墓群が検出されている。縄文時代後期の北東北で特徴的な再葬という葬法に関係するもので、葬送祭祀に関係が深い集落外施設と考えられる。また、海岸に面して、安山岩によって構成される斜面の裾に立地する大浦遺跡は、縄文時代晩期の製塩跡が検出されており、生業に関係する集落外施設に相当する。固結堆積物によって構成される土地に立地する縄文時代の遺跡について、後期以降の遺跡が多く、それ以前の時期に属する遺跡が少ないという状況は、後期以降における集住形態から分住形態への移行に伴い、小規模集落の広範囲にわたる拡散、またそれらの集落と密接な関係をもつ集落外施設の形成などに起因していると思われる。

また第9表における平安時代以降の遺跡に着目すると、尻八館遺跡、飛鳥山館遺跡、戸崎館遺跡、土筆山館遺跡、戸門館遺跡、多宇末井館遺跡のように城館跡とされる遺跡がみられる。このような城館跡は、通常、丘陵の急斜面に立地するなど、集落を展開する上では不利と考えられるような条件を利用し、それを自然の要害としている。したがって、城館跡が、固結堆積物によって構成される土地に立地する例が多いのは、集落としての土地を選定する場合とは異なり、自然の要害が砦としての防御機能して意識されることにより、このような地質によって構成される急傾斜な斜面や山間部が選定された結果によるものであろう。平安時代の遺跡が固結堆積物によって構成される土地に立地している要因としては、未確認の城館跡である可能性が想定されるほかに、鉄製品の普及などによる開発力の向上を背景とした居住可能な地域の広域化、須恵器や製鉄などの専門性を必要とする様々な生産行為に関係する原料や資源の入手を目的とした人々の広範囲にわたる活動が想定される。

以上のように、青森市内に存在する遺跡と表層地質の関係を分析すると、第7図からみてとれるように、各時期において未固結堆積物によって構成される土地に立地する遺跡が多い。このような地質を、集落の構成要素である竪穴住居や土坑などの掘削において比較的労力が少なくすむという地質的好条件と仮定したとしても、これらの遺跡は必ずしも地質的好条件が重要視された結果とは考えにくい。集落などを展開しやすいと思われる平坦地のほとんどが、未固結堆積物によって構成される土地であるということから、過去の生活の痕跡がほとんど残っていない処女地の選定における前述のような地質的、地形的好条件から想定される利点の重要度を考慮すれば、むしろ平坦な土地を有するという条件の方が重要視されたとするのが妥当であろう。しかし、平坦面を有し、未固結堆積物によって構成される土地に同じように立地する遺跡であっても、長期間にわたって存続している遺跡もあれば、短期間の遺跡もあり、生活を営む土地として、長期間にわたる存続を可能にするためには、本項で想定した地質的、地形的利点のほかにも、水利や生活資源の豊富さなどさまざまな要素が考えられる。また、第9表をみると、固結堆積物・火山性岩石によって構成される土地に立地する遺跡の継続時期が1～2時期のものが多い。このような地質の土地は、起伏のある山地地形であることから、通常、集落を営む土地には適していないと思われる。おそらくこれらの遺跡の中には、一度は集落を営む土地として選定されたものの、条件不十分のため廃絶を余儀なくされた遺跡もあったであろう。また、固結堆積物・火山性岩石によって構成される土地に立地する遺跡の中には、縄文時代後期前半の再葬土器棺墓群、石棺墓群が検出された山野峠遺跡のほか、いくつかの中世城館が認められることから、これらの遺跡が立地する土地の選定

においては、集落を営む土地を選定する場合とは異なり、山地の急斜面や激しい起伏など通常は悪条件と判断されるものが、見晴しの良さ、自然の要害などのような好条件として一時的に受け入れられたためと考えられる。

本項では、地質から遺跡の立地について考察したが、近年は、遺跡の発掘調査において、地質、土壌、古植生など関係諸科学との連携によって、遺跡の古環境の復元が試みられているが、このような連携は、領域論、分布論のほか、遺跡立地論において、未調査の遺跡を含めて、過去の人々の土地選定の条件、土地利用の過程の研究をおこなって行くうえで重要であると考えられる。さらには、未だ地中に眠っている遺跡を発見する上でも、関係諸科学との連携は有効であると考えられる。

(註1)第7図のグラフでは、未固結堆積物を、沖積地や段丘面にみられる堆積物(沖積・段丘)、八甲田火山起源の火山灰、軽石流堆積物(火山灰・軽石)とに分けた。

引用・参考文献

- | | | |
|----------|------|---|
| 青森県 | 1984 | 『土地分類基本調査 油川』 |
| 青森県 | 1982 | 『土地分類基本調査 青森西部』 |
| 青森県 | 1983 | 『土地分類基本調査 青森東部』 |
| 青森県 | 1985 | 『土地分類基本調査 青森西部』 |
| 青森県教育委員会 | 1998 | 『青森県遺跡地図』 |
| 青森県教育委員会 | 1982 | 『青森県の中世城館』 |
| 青森市教育委員会 | 1971 | 『大浦遺跡調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 1983 | 『山野峠遺跡』 |
| 青森市教育委員会 | 1997 | 『市内遺跡詳細分布調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 1998 | 『市内遺跡詳細分布調査報告書』 |
| 市瀬 由自 | 1985 | 「臨海沖積平野の地形と古代遺跡の立地」『法政考古学 第10集』 |
| 菊地 真 | 1997 | 「遺跡立地の環境考古学的研究とその展望」『史学研究 第22号』 |
| 小林 達雄 | 1996 | 「縄文世界における空間認識 - 祭祀儀礼空間の形成と展開 - 」
『國學院大学日本文化研究所紀要 第78輯』 |
| 小林 克 | 1997 | 「縄文のムラ、墓と祈り」『ここまでわかった日本の先史時代』 |
| 新津 健 | 1998 | 「集落内外の構成とつながり」『季刊考古学 第64号』 |
| 宮崎 博 | 1986 | 「土地と縄文人」『物質文化 第47号』 |
| 山田 昌久 | 1997 | 「道具・技術と居住のかたち」『ここまでわかった日本の先史時代』 |
| 河原 純之編 | 1990 | 『古代史復元 古代から中世へ』 |
| 桜井 清彦 | 1973 | 「青森市沢田A遺跡の調査報告」『北奥古代文化第5号』 |

(設楽 政健)

ま と め

今年度の調査の結果、新規登録遺跡は5カ所、範囲変更（拡張）遺跡は2カ所であった。これで、青森市内に所在する遺跡は、今年度の新規登録遺跡を含めて297カ所となった。

青森市内の遺跡の多くは標高20m以上の丘陵地や山間部に所在しており、平野部に存在している例は少ない。また、これまでの分布調査で新規登録された遺跡についても、そのほとんどが同じく標高20m以上の丘陵地上から発見されたものである。平野部の大部分は、市街地、住宅地、水田として土地利用されており、平野部を踏査し、地表面の観察によって遺物を発見することは困難であると思われる。しかし、青森県教育委員会によって新規登録された大矢沢野田遺跡(1)のように、平野部の地下深く眠っている遺跡が今後新たに発見される可能性がある。今後は平野部についても重点的に踏査を行っていく必要があると考えられる。

今年度は、平成4年度に本事業を実施してから7年目の年となる。今後も増加していくと思われる開発事業と埋蔵文化財保護の円滑な調整を図るため、市内に所在する遺跡の範囲、性格を把握し、遺跡に関する基礎資料を整備していかなければならない。それに伴い、遺跡間の近接度や立地状況から考えて遺跡の拡張や縮小、統廃合を行う必要があると考えられる遺跡、破壊の危険にさらされている遺跡のリストアップについても、今後の調査でおこなっていかなければならない。

また、開発事業と埋蔵文化財保護の調整を図るためには、埋蔵文化財保護の立場である我々が遺跡に関する基礎資料を整備していくことは勿論、開発事業者側のさらなるご理解をいただく必要があると考えられる。

最後に、今年度の調査にあたり、本事業の趣旨をご理解いただき、現地踏査をさせていただいた土地所有者の方々に感謝の意を表するとともに、本書が埋蔵文化財保護の一助となることを願う次第である。

報 告 書 抄 録

ふ り が な	しない いせき しょうさいぶんぶちょうさほうこくしょ							
書 名	市 内 遺 跡 詳 細 分 布 調 査 報 告 書							
副 書 名								
巻 次								
シ リ ー ズ 名	青森市埋蔵文化財調査報告書							
シ リ ー ズ 番 号	第43集							
編 著 者 名	設 楽 政 健							
編 集 機 関	青森市教育委員会							
所 在 地	〒030-8555 青森県青森市中央一丁目22 - 5 T E L 0177 - 34 - 1111							
発 行 年 月 日	西曆 1999年3月31日							
ふ り が な 所 収 遺 跡 名	ふ り が な 所 在 地	コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積 m ²	調 査 原 因
		市 町 村	遺 跡 番 号					
しないいせき 市内遺跡	あおもりけん 青森県 あおもり しない 青森市内	02201				19980401 ~ 19990331		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構			主 な 遺 物	特 記 事 項	
しないいせき 市内遺跡		縄 文 平 安				縄文土器 土 師 器 製塩土器		

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962	『三内霊園遺跡調査概報』
〃	2	1965	『四ツ石遺跡調査概報』
〃	3	1967	『玉清水遺跡調査概報』
〃	4	1970	『三内丸山遺跡調査概報』
〃	5	1971	『野木和遺跡調査報告書』
〃	6	1971	『玉清水 遺跡発掘調査報告書』
〃	7	1971	『大浦遺跡調査報告書』
〃	8	1973	『孫内遺跡発掘調査報告書』
		1979	『蚩沢遺跡』
		1983	『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財		1983	『山野峠遺跡』
〃		1985	『長森遺跡発掘調査報告書』
〃		1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』
〃		1987	『横内城跡発掘調査報告書』
〃		1988	『三内丸山 遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書第 16 集		1991	『山吹（1）遺跡発掘調査報告書』
〃	第 17 集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃	第 18 集	1993	『三内丸山（2）遺跡発掘調査概報』
〃	第 19 集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第 20 集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概報』
〃	第 21 集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第 22 集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第 23 集	1994	『三内丸山（2）・小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第 24 集	1995	『横内遺跡・横内（2）遺跡発掘調査報告書』
〃	第 25 集	1995	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第 26 集	1995	『桜峯（2）遺跡発掘調査報告書』
〃	第 27 集	1996	『桜峯（1）遺跡発掘調査概報』
〃	第 28 集	1996	『三内丸山（2）遺跡発掘調査報告書』
〃	第 29 集	1996	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第 30 集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第 31 集	1997	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第 32 集	1997	『桜峯（1）遺跡発掘調査概報』
〃	第 33 集	1997	『新町野遺跡試掘調査報告書』
〃	第 34 集	1997	『葛野（2）遺跡発掘調査報告書』
〃	第 35 集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第 36 集	1998	『桜峯（1）遺跡発掘調査報告書』
〃	第 37 集	1998	『新町野遺跡発掘調査報告書』
〃	第 38 集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書』
〃	第 39 集	1998	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第 40 集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第 41 集	1998	『野木遺跡発掘調査概報』
〃	第 42 集	1998	『熊沢遺跡発掘調査概報』
〃	第 43 集	1999	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第 44 集	1999	『葛野（2）遺跡発掘調査報告書』
〃	第 45 集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第 46 集	1999	『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
〃	第 47 集	1999	『熊沢遺跡発掘調査概報』

青森市埋蔵文化財調査報告書第43集

市内遺跡詳細分布調査報告書

発行年月日 平成11年3月31日

発行 青森市教育委員会

〒030 - 8555 青森市中央一丁目22 - 5

TEL 0177 - 34 - 1111

印刷 東北印刷工業株式会社

〒038 - 0902 青森市合浦一丁目2-12

TEL 0177 - 42 - 2221
